

Rotary  
2018-19 年度 国際ロータリーのテーマ  
インスピレーションになる  
2018-19 年度 国際ロータリー会長バリー・レーン  
RI 2630 地区 岐阜東濃グループ



本日の例会プログラム

例会前 健康診断 11:30~12:20 / 職業奉仕委員会担当

1. 開会点鐘
2. ソング = 「それでこそロータリー」
3. ゲスト、ビジターの紹介
4. 食事と交歓
5. 会長の時間
6. 出席報告、コホックス発表、委員会報告、幹事報告
7. 卓話 丸山 輝城君 / 会報発行委員会担当  
「地域に住んで70余年雑感」
8. 閉会点鐘

卓話者紹介



50期中津川 RC 会長  
まるやま てるき  
丸山 輝城君

昭和 19 年 (1944 年) 12 月 25 日生 (74 歳)  
勤務先 丸山木材工業株式会社  
代表取締役  
マルヤマグループ 代表

2007 年 11 月 ~

2016 年 10 月 中津川商工会議所 会頭

2016 年 11 月 ~ 現在 中津川商工会議所 名誉会頭に就任

2017 年 5 月 ~ 現在 岐阜県木材協同組合連合会 会長に就任  
岐阜県「東京オリ・パラ」県産材利用促進協議会 会長に就任  
現在に至る



会長の時間

田口義也会長

今日は、先週に引き続きチュニジア共和国での地形図成プロジェクトに参加した時の話をさせていただきます。この時の地形図作成は縮尺 8 万分の 1 でした。図上の 1 mm が実際の寸法でいうと 80 m となります。1 cm は 800 m となる訳ですから、地形図作成の現地調査は地形を正確に表現するのではなく、客観的に現在地や目的地が分かりやすく表現することが重要になります。

目標物になるものは多少過大表現になっても記入することが大事です。小さな点でしかない砂漠の井戸であっても、その集落ではとても重要なポイントです。小さな建物でもイスラム教徒にとっては重要な祈りの場、モスクであったり、人が歩くだけの細い道でも昔から行き来している道は的確に表示しなくてはなりません。以上の事から現地調査は、その地方の特性を理解し地形地物の取捨選択を行い表現する必要があります。

また、空中写真からの判読技術も重要な要素です、作業範囲は 163,000 km<sup>2</sup> と北海道の 2 倍もの面積がある国土を数カ月余りで調査するわけですから、直接現地確認が出来ず、写真判読のみで表現することも多々あります。

最近テレビでやっている様な Google アースから衛星写真を拡大して山の中にぽつんと存在する建物や土地を見つけ実際に何があるか確認に行くと言う番組がありますが見たことありますか？

我々も写真上これ何だ！と思われるものは必ず調査に行かなくてはなりません。時には泊りがけで山の中をさ迷うこともあり出来れば、行きたくなーいと思ったものでした。しかし、驚かされたのは、写真判読時の資料として渡された 20 万分の 1 程度の地図が 1900 年代の初期に作成された地図にも関わらず、チュニジア北部の数十パーセントを網羅したかなり正確なものでした。

これはフランス領だったことが関係してミシュランタイヤが整備した地形図でした。日本ではミシュランといえばグルメマップやレストラン等の評価を星の数で表現して公表しているのが有名ですが、実は地図作成の歴史も古く、パリ万博が行われた 1900 年に自動車運転者向けのガイドマップを発行したのが最初だと記録されています。

そんなことから思い起こせば、古代ローマも、日本もまた、世界の歴史的発展にも地図は必要なアイテムだと確信し、遣り甲斐のある仕事だと思い現在のトライに至っています。

以上で本日の会長の時間を終わります。 ありがとうございます。

例会日 木曜日  
会場 中津川商工会議所 3F  
事務所 中津川商工会議所 3F

Tel. 0573-66-9933 Fax. 0573-66-8766  
E-mail : n-rc@takenet.or.jp  
HP : http://nakatsugawa-rc.jp

会長 田口 義也  
幹事 志津 竜良  
会報 山本 亮